



発行所 東京都文京区千石
4丁目2番15号 〒112-0011
株式会社 建帛社
発行人 筑紫和男
電話 営業部 (03) 3944-2611
編集部 (03) 3944-2613
FAX (03) 3946-4377
https://www.kenpakusha.co.jp/
E-mail info@kenpakusha.co.jp
©建帛社, 2022

栄養学の学術としての確立と地球規模の課題

特定非営利活動法人日本栄養改善学会理事長

村山 伸子



人間(人類)の健康であり、栄養という営みはその両者の接点であると考えます。したがって、栄養学の発展と学術としての確立は、こうした地球規模の課題への対策に貢献していくことにつながります。

今、持続可能な地球、誰一人取り残さない社会の実現が世界共通の課題となっています。そのベースにあるのが、地球環境の健康と

あけましておめでとうございます
本年も宜しくお願い申し上げます

昨年、弊社では新刊二〇点、改訂・改版三三本の書籍を発行いたしました。コロナ禍で教育機関等への訪問が制限され、また関連学会も現地開催がないなかで、先生方と思うように面会できず、現場の声をお聞きできない状況が続きました。先生方からの声で新刊企画が生まれてくることが多いため、この状況下では新刊企画も生まれにくく、出版社はやはり先生方のお力添えのうえに成り立っていると痛感しております。まだ予断を許さない状況は続いています。一日も早く収束を迎え、先生

専門書が果たす役割を考える

(株)建帛社社長 筑紫和男

類され、じっくりと向き合って読み解く、必要な知識・文献を検索する、他教科を勉強した後に改めて見返して関連性をもって知識を身につけるという、一般書と違う役割を担っています。

電子書籍の販売金額は、出版科学研究所が発表している「出版指標年報」によると、集計を取り始

人間(人類)の健康であり、栄養という営みはその両者の接点であると考えます。したがって、栄養学の発展と学術としての確立は、こうした地球規模の課題への対策に貢献していくことにつながります。

日本栄養改善学会では、これまで栄養学の学術としての確立をめざして、他学会等と共同して研究面、教育面での体制整備を行って

日本栄養改善学会では、これまで栄養学の学術としての確立をめざして、他学会等と共同して研究面、教育面での体制整備を行って

日本栄養改善学会では、これまで栄養学の学術としての確立をめざして、他学会等と共同して研究面、教育面での体制整備を行って

日本栄養改善学会では、これまで栄養学の学術としての確立をめざして、他学会等と共同して研究面、教育面での体制整備を行って

日本栄養改善学会では、これまで栄養学の学術としての確立をめざして、他学会等と共同して研究面、教育面での体制整備を行って

日本栄養改善学会では、これまで栄養学の学術としての確立をめざして、他学会等と共同して研究面、教育面での体制整備を行って

日本食品標準成分表2020年版(八訂)
同アミノ酸編・脂肪酸編・炭水化物編
日本人の食事摂取基準(2020年版)

対応

Window 10
Excel2016,2019
対応

評価もできる高機能栄養計算ソフト

Excel[®]栄養プラス[®]アドイン

監修 高田和子・石田裕美・石原淳子

定価28,600円(税10%込)

- ・「エクセル栄養君」を全面リニューアル
- ・八訂成分表における推奨されたエネルギー等の計算に対応
- ・摂取基準等を参照した栄養評価と、わかりやすい結果票出力が可能
- ・成分表の正誤表への対応や、未掲載食品もユーザ登録が可能
- ・「エクセル栄養君」で作成したユーザデータも移行可能

《好評発売中》

「栄養プラス[®]」アドインソフト／Excelアドインソフト

食物摂取頻度調査票 FFQ NEXT

著作 国立研究開発法人 国立がん研究センター
監修 石原淳子・高地リベカ

定価6,600円(税10%込)

- ・次世代多目的コホート研究(JPHC-NEXT)にて開発された調査票をソフト化
- ・紙媒体・Web回答フォーム・Excelなど多様な方法で回答収集が可能

2022年3月リリース!! 最新情報は弊社HPをご確認ください

新刊専門書

(表示価格税10%込)

ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム
「テ・ファア・リキ」(完全翻訳・解説)
――子どもが輝く保育・教育のひみつを探る――
神代典子 訳
B5 144頁
カラー・口絵8頁
2420円

エビデンスに基づく
競技別・対象別スポーツ栄養
高田和子 編著
B5 232頁
3850円

リン脂質の性状と機能性
細川雅史 責任編集
A5 152頁
2640円

HACCP管理者
認定テキスト
委員会
B5 152頁
2420円

成人言語聴覚療法ハンドブック
(二)社日本言語聴覚士協会 監修
森田秋子・内山量史 編著
B5 144頁
3080円

コロナ禍後の大学における教育DX(デジタルトランスフォーメーション)とそこに求められる教員の資質向上

中島 滋

近年、DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉をよく耳にする。企業におけるDXとは、DX高速インターネットやクラウドサービス、人工知能(AI)などの情報技術(IT)によってビジネスや生活の質を高めていくことであり、単なるデジタル化やIT化とは異なる一歩進んだ変革であり、すでに多くの企業が取り組んでいる。

大学での教育DXにおいては、等々の積極的な声もあった。今後は、オンデマンド型と対面授業を組み合わせたブレンドラーニングや、対面授業と遠隔授業を受ける学生が共存するハイブリッドクラスルームが有効な授業方法となると思われる。個人に最適化された教育、

では、オンライン授業で自ら熟慮し、対面授業で熟識を促すことで、より主体的な学習が可能となる。また、ハイブリッドクラスルームでは、大学間に留まらず、オンライン留学も視野に入れたさまざまな交流が可能である。今後、各大学で多様な教育DXが実施されるであろう。

ここからは私見となる。大学教育における教育DXが有効に機能するためには、教員や学生のデジタル化やIT化に関するスキルの向上が必要だが、それ以上に、教員が襟を正して真摯に自らの資質向上に努めることであると思う。つまり、学生から信頼される教育・研究者であることが一番大切である。大学の教員は研究者であると同時に教育者でもある。SDGsは貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを実現できるようにすることを目指す普遍的な行動と呼びかけるものである。ここで掲げられている十七

SDGs・食育基本計画とスポーツ栄養

木村 典代

SDGsや環境問題に関する情報を目にする機会が今まで以上に増えてきている。SDGsは貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを実現できるようにすることを目指す普遍的な行動と呼びかけるものである。ここで掲げられている十七

の開発目標には栄養・食・健康にかかわるものも多い。さらに、令和三年に発表された第四次食育推進基本計画においても、基本的な方針として持続可能な食を支える食育の推進が掲げられている。このような流れのなか、スポーツ栄養の分野でも、身体活動量の多い対

象者や専門的にスポーツを行う人に対し、世界や日本が掲げているこれらの目標に調和しつつ、どのように向き合うべきかを考えさせられる機会が増えた。

令和三年に開催された第六十八回日本栄養改善学会学術総会の教育講演、リレー特別講演にて「持続可能な食」の話題が取り上げられた。日本の食事は温室効果ガスの排出量が少なく、世界の食生活改善に貢献が可能であることが紹介されていた。この話を聞きながら、東京オリンピック・パラリンピックでは、世界各国から集まってきたスポーツ選手やその関係者の方々に、この日本食のすばらしさを知ってもらえるよい機会になっていたのかもしれないと感じた。

一方で、世界や日本がめざす開発目標や食育推進基本計画と、スポーツ栄養が密着している点があることも感じている。例えば、赤肉(家畜肉)や乳製品といった動物性食品の摂取は、良質なたんぱく質やミネラル類の補給源となり、スポーツ現場の栄養補給計画・栄養指導においては、とりわけ摂取を意識させている食材であるが、環境面からみれば、温室効果ガスの排出が多い食材である。合宿や遠征期間などでは、個別包装した便利な食品を用いる機会も多い。食料の廃棄を減らす

「障害」という語を用いると、「有無」を明らかにしたくなり、「障害有り群」と「障害無し群」に分類しがちです。しかしこの障害は、この二つに分けられるほど単純ではありません。症状は変化し、軽症化することも多くあります。私たち医療福祉関係者にとって大切なことは、この障害をどう

に、「認知能力」という語を可能に限り用いています。「認知能力」には、注意、記憶、感情など、個々の機能があると考えられます。しかし、実際の生活のなかで、それらは個別に働くわけではなく、全体で、考えた力として発揮します。そして、そ

かに損なわれているだけの人もいます。大切なことはそれぞれの人のどの様な力が残されているのかを理解することです。自分では何もできず重い障害があるように見える人が「ここをしっかりと持っていてください」という指示に従うことで、介助者の負担を軽減できる場合があります。ここがどこかわからなくなっているのに、介助されて感謝の言葉をかけることができ、介助者に有る感や満足感を感じさせてくれることもあります。小さくなっていたり、偏っていたりしても、その人のなかに残されている力があるのです。

あえて、高次脳機能障害といわず、認知能力と呼ぶことにより、それぞれの人のなかに残されている力をみつけ出すかわりの重要性を再認識することができ、リハビリテーションの原点に立ち返ることができのを感じます。(鶴飼リハビリテーション病院)

あえて、高次脳機能障害といわず、認知能力と呼ぶことにより、それぞれの人のなかに残されている力をみつけ出すかわりの重要性を再認識することができ、リハビリテーションの原点に立ち返ることができのを感じます。(鶴飼リハビリテーション病院)

若年の交通事故による頭部外傷者が社会復帰困難となり社会問題化するようになったところから、「高次脳機能障害」という語が一般にみかけられるようになりまし

た。人にはみえにくく、わかりにくい症状ですが、名前がついて、行政からの手が差し伸べられる道が開けたことには大きな意義があります。しかしながら、「高次脳機能障害」は多様で難解のため、今なお一般に正しく理解されていないと感じることが少なくありません。医療福祉関係者でさえ、「正しく理解していない」と思うことがあります。

例えば、病院のカンファレンスで、「高次脳機能障害があるから、この患者さんはよくなりません」という発言を聞くことがあり、かわり方が難しいため、うまく改善を引き出せずに高次脳機能障害を言い訳にしているのではないかと感じることもあります。

とらえることがその人を援助することにつながるのか、どうかかわり出すことができるのか、ということではないでしょうか。近ごろ私は、あえて「高次脳機能障害」という語を用いないようにしようと心がけています。代わ

とらえることがその人を援助することにつながるのか、どうかかわり出すことができるのか、ということではないでしょうか。近ごろ私は、あえて「高次脳機能障害」という語を用いないようにしようと心がけています。代わ

あえて「高次脳機能障害」でなく「認知能力」という語を用いたい理由

森田 秋子

あえて「高次脳機能障害」でなく「認知能力」という語を用いたい理由

あえて「高次脳機能障害」でなく「認知能力」という語を用いたい理由

あえて「高次脳機能障害」でなく「認知能力」という語を用いたい理由

あえて「高次脳機能障害」でなく「認知能力」という語を用いたい理由

あえて「高次脳機能障害」でなく「認知能力」という語を用いたい理由

新刊教科書

(表示価格税10%込)

特別支援教育免許シリーズ 各巻B5判

特別支援学校教諭免許取得のための初体系的テキストシリーズ

シリーズ監修 花熊 暁・荻田知則・笠井新一郎・川住隆一・宇高二良

特別支援教育概論 花熊 暁 編著 240頁 3190円

聴覚障害教育領域 宇高二良・長嶋比奈美 編著 160頁 2530円

聞こえの困難への対応 加藤智則 編著 208頁 2860円

知的障害教育領域 笠井新一郎・坂井 聡 編著 208頁 2860円

認知機能知的機能の困難への対応 荻田知則 編著 208頁 2860円

肢体不自由教育領域 櫻木暢子・笠井新一郎 編著 208頁 2860円

運動機能の困難への対応 花井丈夫 編著 192頁 2750円

病弱教育領域 中野広輔・櫻木暢子 編著 208頁 2860円

健康面の困難への対応 流川国芳 編著 208頁 2860円

合理的配慮 金森克浩・大杉成喜 編著 208頁 2860円

支援機器を用いた合理的配慮概論 荻田知則 編著 208頁 2860円

以下続刊

第1欄 「気になる子」をみるかわる視点 第2欄 視覚障害教育領域 見えの困難への対応

重複障害者の教育 発達障害者の教育① 行動上の問題への対応

ライフキャリア教育 発達障害者の教育② ことば・学習上の問題への対応

生涯にわたる配慮・支援

スタディ生化学 渡邊敏明 編著 B5 264頁 3630円

疫学・健康統計学 緒方裕光 編著 B5 168頁 2750円

中学校・高等学校 体育科教育法 今岡豊一・岡出美則 編著 B5 176頁 2530円

コンパス 教育原理 古賀一博・中坪史典 編著 B5 144頁 2090円

コンパス 教育者論 上野恭裕・米谷光弘 編著 B5 144頁 2090円

コンパス も理解 上田敏文・香賀我郎 編著 B5 144頁 2090円

子どもから考える理論と援助 シードブック 太田光洋 編著 A5 160頁 1980円

子育て支援演習 太田光洋 編著 A5 160頁 1980円

介護過程 柊崎京子 編著 B5 184頁 2750円

新 医療秘書実務シリーズ 医療秘書教育全国協議会 編著 B5 184頁 2750円

新刊を含みシリーズを刷新!! 各巻B5判

①三訂 医療秘書 寺田智昭・大塚 映 共著 200頁 2750円

②改訂 病院のマネジメント 藤井昌弘・岸田敏彦 共著 232頁 2860円

③三訂 医療情報管理 野田雅司・伊藤敦子 共著 128頁 2310円

④三訂 医療関連法規 清水祥友・淡島正浩 共著 232頁 2860円

⑤社会福祉関連法規 澄川良一・安部正美 共著 168頁 2530円

⑥DPCの実際 秋山貴志・林田朋子 共著 144頁 2310円

宮本晃太 共著

医療的ケア児と家族の支援に 関する法律の施行と医療保育

吾田 富士子

ダイバーシティを掲げた東京パラリンピックが終了し、LGBTQが日常的に語られ、日本でも共生社会への歩みがさまざまな分野で見受けられるようになった。そのようななか、成立したのが「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」(令和三年六月公布、九月施行)である。

医学の進歩により、日本は新生児死亡率が最も低い国のひとつとなっている。一方、日々の生活を営むために日常的に医療的なケアを必要とする子どもたちは増加している。こうした子どもたちが在宅で暮らし、ほかの子どもと共に保育や教育を受けることはきわめて難しい現状にある。

先日、教える子である元保育士が医療的ケアの必要を備へて、我が子の保育のために、療育施設、幼稚園、保育所、市役所、教育委員会等、各部署に相談し、その都度、情報が錯綜し、希望が得られなかったと思えば落胆することとを繰り返した。「医療的ケア児がさまざまな子どもと共に保育を受けたいと考えていることは間違いないだろう」と尋ねてきた。その都度、入園内定をいっただいたのは半年後のことである。こうした多くの親子の存在が、この法律成立の背景にある。

この法律では「医療的ケア児」を次のように定義し、医療的ケア児の日常生活および社会生活を社会全体で支えることを基本理念とし、保育・教育を行う体制の拡充、相談体制の整備など包括的な支援体制の構築を目的としている。その達成のために、社会にあるさまざまなバリアを除去していかねばならない。バリアを除去するため、すでにある

日本では平成十九年、それまでの「特殊教育」は「特別支援教育」へと生まれ変わった。旧来の重い障害のある子どもたちが「特別な場で学ぶ」という制度から、「特別な支援を受け共に学ぶ」ようになった。また、通常の学級で学ぶさまざまな支援を必要としている子どもたちへの教育の充実も必要とした。それは「障害」のとなえ方の大きな転換であった。

を国と地方公共団体の責務として明記している。

「日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケア(人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為)を受けることが不可欠である児童(十八歳未満の者及び十八歳以上の者であつて高等学校等に在籍する者)」

施行にあたっては、医療的ケア児と保護者の意思を最大限に尊重すること、高等学校を卒業し医療的ケア児でなくなった後の相談も含め、切れ目のない支援を行うことが示されている。また、保育所等には保健師、

日本の医療制度改革の 方向について考える

安部 雅仁

日本では、一九六一年に国民皆保険が達成され、この成果が得られている。以降、受診機会の平等が、医療費の増加に伴って財源問題が深刻化して

「基礎的環境整備」がなされ、さらに求められるのが「合理的配慮」である。障害のある人たちの困難さは、個別に大きく異なる。障害者権利条約に、「合理的配慮」とは「障害者が他の者と同等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確認するための必要かつ適当な

特別支援教育における合理的配慮とICT
金森 克浩

た日本医療保育学会では、医療が必要な子どもに寄り添い、保護者支援を担うなかで医療保育の専門性を追求してきた。医療現場で培った保育の専門性は、医療的ケア児の保育のためにも生かされるだろう。保育の場において、多様な子どもたちや保護者と出会うなかで、保育者に求められる専門性は今後ますます多岐にわたっていくと考えられる。

国・自治体、関係機関が共に新たな課題に真摯に向き合うことで、真の共生社会が構築されるであろう。(藤女子大学教授・日本医療保育学会理事長)

り、経済の低成長と財政赤字が長期化する現代において、医療制度改革は重要課題になっている。

これまでの主な制度改革として、診療報酬の抑制と薬価基準の引き下げ、社会保険料と患者自己負担の引き上げが行われてきた。また、「社会保障と税の一体改

ためには、当事者同士の「建設的な対話」が大切である。各々が主張するのではなく、お互いの立場を尊重し歩み寄ることによって、解決の方法がみえてくる。

「合理的配慮」において、ICT機器は大きな役割を果たす。人がどれほどまでに配慮をしても、限界がある。また、障害当事者が求めるものは、的確に答えられるものではない。しかし、ICTの活用は幅の広い変更調整が可能であり、当事者がそれを活用することで自立的な生き方と学びを実現することができると。私の知人はほぼ身体を動かすことができないが、ICTを活用することで、視線と足の指のわずかな動きで海外の人と交流を深めゲームをし、豊かな生活を送っている。多くの人がICTの可能性を知り、ICTが支援の一助を担い幅広く活用される社会であつて欲しいと考える。(帝京大学教授)

「草」により、消費税増税の財源の一部が医療保障に充当されることになっている。

医療制度のあり方を考えるうえで、こうした財源論のほかに、人口構造と疾病構造の変化を踏まえた議論が重要になる。周知のように日本では、人口減少と少子高齢化が同時に進行している。これに伴い若年労働者が減少する一方、健康リスクを抱える高齢労働者の増加傾向がみられる。

一般に健康リスクは、三十歳代後半以降に増加し、五十歳前後から生活習慣病の発症率が次第に上昇するとされ、これは多くの国民に共通する現象でもある。

生活習慣病は、悪性新生物、心臓疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧症等をさしている。近年では、疾病構造が変化するなかで、これらの罹患率と医療費が増加している。

こうした疾病は、予防医療により発症率・重症化率の低減が可能とされ、具体的に、一次予防と二次予防の重要性が指摘される。

一次予防は、定期健診の促進と生活習慣の改善により、「健康リスク・発症率の低減」を図ること。二次予防は、早期発見・早期治療により、「重症化・長期入院の抑制」につなげることにある。

ことにある。これは、生活習慣病への対応に限らず、次の三つにおいて有用とされる。第一は、労働生産性の維持・向上、第二は、健康寿命の延伸であり、第三として、多くの労働者の長期就労により、特に公的年金における保険料負担者の増加につなげることができ

一般に、予防による医療費抑制効果は明らかではないとされる。しかし、健診・検査機器と検査技術が進歩し、疫学研究が進展している現代では、予防医療には、医療費の多寡では判断できない意義があるものと考えられる。一方、こうした医療の成果を規定する要因のひとつは、国民の健康意識の向上にあるとされ、このためには、医師(とりわけ、かかりつけ医)、医療保険者それぞれの役割も重要になる。また、IT(ICT)が高度化・普及するなかでは、オンライン診療を導入して、生活習慣の改善・指導と健康管理(服薬指導を含む)、在宅医療にも活用することが有用になる。

これらは、一次予防と二次予防の連携方法や診療報酬等の制度対応の課題が残されているが、今後の医療制度改革の方向(あるいは、限られた財源の使い方のひとつとして望ましいと考えられる。

(北星学園大学教授)

管理栄養士国家試験eラーニング

国家試験の過去問題・解答・解説を収録したWebシステム過去問対策から成績管理まで、国家試験対策を完全サポート!スマートフォン・タブレットなどモバイル環境にも対応!!
個人用プラン 5000円(税)3年間ライセンス契約
学校用プラン 11000円(税)1年間ライセンス契約
個人用プラン 学生用サイトの主な機能
模範試験、分野別・ランダムなどさまざまな形式で学習。
科目ごと、試験ごとの成績管理機能。
学校用プラン(教員用サイト)の主な機能
学生の利用状況、成績を一括管理。成績の比較・分析も可能。
小テスト作成機能。作成した小テストは学生用サイトに更新。
当社HPより無料デモ版をダウンロードご利用いただけます。

改訂教科書

(表示価格税10%込)

Nブックシリーズ 各巻B5判

新版 社会福祉概論(第3版) 金子光一 編著

四訂 生 化 学 木元幸一・後藤 潔 編著

改訂 食品機能学(第4版) 青柳康夫 編著

三訂 運動生理・栄養学 高松 薫・山田哲雄 編著

新版 給食経営管理論(第2版) 岩井達・名倉秀子 編著

調理 科学(第5版) 森高初恵・佐藤恵美子 編著

カレントシリーズ 各巻B5判

改訂 食(物)と健康1 食品の化学と機能 青柳康夫・津田孝範 編著

改訂 食(物)と健康3 食品衛生学 川村 堅・斉藤守弘 編著

改訂 基礎 栄養学 木元幸一・中島 滋 編著

改訂 給食経営管理論 松井元子・富田圭子 編著

Nブックス実験シリーズ

三訂 食品衛生学実験 後藤政幸・熊谷優子 編著

新版 食品衛生学(第3版) 西島基弘・山本茂貴 編著

三訂 マスター食品学Ⅰ 小関正道・鍋谷浩志 編著

三訂 マスター食品学Ⅱ 小関正道・吉川秀樹 編著

改訂 マスター栄養教育論実習 佐藤香苗・杉村留美子 編著

マスター調理学(第4版) 西堀すき江 編著

三訂 ライフステージ別栄養管理実習 吉岡慶子・三成由美 編著

三訂 アップ臨床栄養学実習第2版 桑原節子・水井 徹 編著

栄養診断に基づく栄養食事計画Ⅰ 稲山貴代・大森玲子 編著

食と健康の科学(第3版) 小林修平 編著

健康づくりの栄養学(第3版) 上地加奈子・片山直美 編著

給食のための改訂 基礎からの献立作成 上地加奈子・片山直美 編著

四訂 食品の消費と流通 スベシヤリスト協会 編

食物学Ⅰ(第2版) 日本フードスペシャリスト協会 編

食品の成分と機能 上原登志夫・根岸由紀子 編著

三訂 セミナー子どもの食と栄養

改訂 医療保育セミナー 日本医療保育学会 編(大幅改訂)

新医療秘書医学シリーズ⑦ 医療秘書教育全国協議会 編

三訂 医療 用 語 井上肇・瀧本美也 共著

病院事務のための医療事務総論(医療秘書実務第2版) 日本医療福祉実務教育協会 監修

B5 272頁 3520円

B5 136頁 2310円

B5 216頁 2860円

B5 224頁 2970円

A5 248頁 2420円

A5 168頁 2090円

B5 144頁 2310円

B5 144頁 2530円

B5 160頁 2420円

B5 128頁 2200円

B5 248頁 3080円

B5 192頁 2860円

B5 152頁 2530円

B5 184頁 2860円

B5 200頁 2970円

B5 276頁 3740円

B5 152頁 2310円

256頁 3300円

216頁 2860円

224頁 2860円

216頁 2860円

184頁 2640円

184頁 2640円

192頁 2530円

240頁 2970円

184頁 2640円

食物摂取頻度調査票

(FFQ)って何？

高地リベカ

食物摂取頻度調査票(FQ)を用いた食事調査は、一定期間内の食品ごとの摂取頻度とポーションサイズ(食品の一回当たりの摂取重量)を、調査票(食品リスト)を用いて調査し、当該期間の一日当たり摂取量を推定する方法である。卓上しゅうゆの使用頻度といった食行動を組み合わせるものもある。食品リストの開発・妥当性検証と、利用目的について説明する。

まず、食品リストの開発では、食生活を包括的に捉える目的でも摂取する可能性のある食品すべてを網羅するのは現実的ではない。一般的な食品の選択条件として、食品が対象集団のかなりの人に頻繁に食べられていること、調査の目的

は、使用目的に応じてその推定精度の確からしさ(妥当性や再現性)を定量的に検証する必要がある。調査票が対象とする調査期間に準じた習慣的な食事の実測値(例…三日間×四季の十二日間食事記録の平均値)と比較参照基準とし、FFQによる推定摂取量と比較することを妥当性といい、適当な間隔で(例…一年)同じ調査票に回答してもらい、同様の摂取量が得られるか比較することを再現性と呼ぶ。FFQの推定精度は、栄養素項目や食品・食品群によって異なること、対象特性(食習慣)の大きく異なる集団に適用した場合には同様の推定精度を示すとは限らないことには留意が必要である。

医療事務職が福祉を学ぶ必要性と意義

出嶋陽介

医療事務職の業務は、近年の立法や新たな医療政策によって多様な広がりを見せつつある。それは、平成元年の「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」により、地域包括ケアシステムという医療と介護の連携体制の推進が規定され、さらに平成二十七年の「医療法」第

理解が必要なところである。筆者は、建帛社の栄養計算ソフト「栄養プラス」のアドバイザーとして三月発売予定の「FFQ NEXT」の監修に役を買っている。これは、国立がん研究センターによる次世代多目的コホート研究での利用目的で開発・妥当性検証されたFFQに基づいている。(奈良女子大学教授

七次改正において、医療機関相互の機能分担と業務の連携を推進する地域医療連携推進法人制度が創設されたことと関係している。加えて、「厚生労働大臣の定める医療法人が行うことができる社会福祉事業」(厚生省告示第十五号・平成十年二月九日)を参照すれば、障害者(児)支援施設、高

フードスペシャリスト課程2022年度用改訂	
四訂 フード・ベジタリスト論第7版	日本フードスペシャリスト協会 編
三訂 食品の安全性第3版	日本ベジタリスト協会 編

近刊案内

(令和4年1月～6月刊行予定。価格10%税込価格・子価、頁数等は変)

栄養疫学(仮)	
Nブックス	栗本清典 編著
新版 食品学Ⅱ(第2版)	田所忠弘・安井明美 編著
Nブックス	北尾 悟・鍋谷浩志 編著
五訂 食品加工学	木元幸一・鈴木和春 編著
Nブックス	津田博子・麻見直美 編著
四訂 基礎栄養学	井上浩一・小林美夏 編著
Nブックス	由田克士・荒井裕介 編著
六訂 公衆栄養学(第2版)	東條仁美 編著
改訂 公衆栄養学(第2版)	石田裕美 編著
改訂 給食経営管理論実習	角野 猛・岸本 満 編著
改訂 給食経営管理論実習	五関正江・小林三智子 編著
改訂 給食経営管理論実習	柳沢幸江・松井幾子 編著
改訂 給食経営管理論実習	加藤昌彦・塚原正美 編著
改訂 給食経営管理論実習	前田佳子・岸本三香子 編著
五訂 臨地実習ガイドブック	金田雅代 編著
四訂 栄養教諭論(第2版)	住本克彦 編著
コンパス	池田隆英・楠本恭之 編著
なぜからはじめる教育原理第3版	中原朋生 編著
福祉施設実習テキストブック	栗山宜夫・小林 徹 編著
保健科教育法	今関豊一・植田誠治 編著
中学校・高等学校	杉崎弘周 編著
子どもの構音障害	能登谷晶子・諏訪美幸 編著
症例から学ぶ	B5 216頁 子価 3410円

栄養士実力認定試験過去問題集

フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集	全国栄養士養成施設協会 編
A4判/96頁(別冊解答・解説5年分付) 定価1210円	
食品物性とテクスチャー	小林三智子 編著
A5 240頁 子価 3080円	

子ども理解のてがかりとして

寺井知香

子どもはストーリーを考えると、その子自身の内的感情を表現している。ナラティブとして自

子どもはストーリーを考えると、その子自身の内的感情を表現している。ナラティブとして自

子どもはストーリーを考えると、その子自身の内的感情を表現している。ナラティブとして自